

陽光丸でクラゲを探す

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 船戸, 健次 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008570

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



調査航海のエピソード

— 陽光丸でクラゲを探す —

陽光丸船長 船戸 健次

今年は、日本周辺の海域に大型クラゲが大量に出現しました。これは平成17年以来のことです。今年の特徴は出現当初は小型（傘径20～30cm）の個体が多かったことです。黄海～東シナ海であまりに大量に発生したため、栄養状態が悪かったかもしれません。

陽光丸は、4月の中旬から下旬にかけて九州西方海域から東シナ海において、また、5月中旬から下旬にかけて九州西方海域・対馬周辺海域において、それぞれクラゲを対象とした目視調査を実施しましたが、クラゲを見ることはありませんでした。次いで実施した6月下旬と7月下旬の九州西方海域における同様の目視調査やプランクトンネットによるサンプリング、調査において、大型クラゲの発生を確認しました。

その後、10月9日から同22日にかけて、九州西方海域でプランクトンの分布調査を行いました。クラゲの目視調査を行うとともに、調査海域内に定点を設け、それぞれの点において、CTD観測（水温、塩分、水深、溶存酸素を連

続的に観測する装置）、透明度板による光環境の測定、ネットによる動植物プランクトン調査などを実施しました。調査の途中には多数の中国漁船が存在し、広範囲におびただしい数のアンコウ網と思われる漁具を設置しており、避けるのに苦慮しました。航海の終わり頃には、調査に支障はなかったものの、荒天のため船が揺れて大変でした。

これらの調査とは別に、陽光丸は、8月下旬から9月中旬にかけて、九州北方から西方海域および奄美大島西方海域で表中層トロール調査を実施しました。この中で、対馬周辺海域での曳網において、頻繁にクラゲが網に入りました。中でも、9月3日に行った対馬海峡東水道北部での操業では一度に推定5トンほどの大型クラゲが入網し、その処理には大変難渋しました。

本船の調査により得られたクラゲの分布やそのときの海流や環境データは、クラゲの来遊予測の精度向上に、他船からの情報とともに、大いに役立てられています。



表紙写真：日台水産研究シンポジウムの様子 撮影日：2010年1月

発行：独立行政法人水産総合研究センター
編集：独立行政法人水産総合研究センター
西海区水産研究所
〒851-2213 長崎県長崎市多以良町 1551-8
TEL 095-860-1600 FAX 095-850-7767
ホームページアドレス

<http://snf.fra.affrc.go.jp/>

本誌掲載の文章・画像等の無断転載を禁じます